

第3回 人材確保と連携研究会 議事概要

日 時：2019年1月10日（木）10:00～12:00

場 所：日本都市センター研究室

出席者：【委員】工藤裕子座長（中央大学）、金子郁容委員（慶應義塾大学）、規矩大義委員（関東学院大学）、高田和幸委員（東京電機大学）、大谷基道委員（獨協大学）、池永紳也委員（北九州市）、古屋勝敏委員（富士見市）

【事務局】石川室長、白田副室長、加藤主任研究員、釘持研究員、黒石研究員、峰岸主任研究員（日本都市センター）

議事要旨

- ・自治体の事例報告
- ・アンケートに関する議論

1 富士見市の事例報告

- ・富士見市では平成23年から30年までの期間に人口は3.3%、世帯数は19.7%増加し、その後平成37年をピークに減少する見込みである。
- ・今後40年で公共施設等更新のために必要な費用は、過去5年の平均額×40年の約2.5倍となる。
- ・職員総数559名（平成30年度末）のうち、土木系技術職が29名、建築系技術職が13名、電気系技術職は6名である。
- ・小泉政権の三位一体の改革のころ、地方交付税が削減され財政状況が悪化し、4、5年間にわたり新規採用を凍結した。それにより、30歳から40歳の職員が少ない。
- ・以前は土木・建築の技術職が一定数いたため、採用を控えていた。近年退職が進んだため採用に力を入れている。しかしながら、応募は少なく、採用試験の見直しを行っている。年齢要件や試験内容を見直し、人数を確保できたが、新卒者の応募は低調のままである。
- ・人口減少にならないよう、都市基盤整備として「魅力あるまちづくり」を掲げている
- ・災害対策業務、上下水道の更新、公園の新設や維持管理など土木系技術職の確保が求められている。
- ・建築系技術職では女性の採用が多く、育児休業やワークライフバランス推進に向けた取組みが重要となっている。

2 自治体事例に関するフリーディスカッション

- ・土木・建築の現場で活躍している人は、公務員試験のための勉強の時間を確保するのは難しいのではないかと。そのような観点から、市役所によっては専門試験を廃止し、スキルをいかに試験の仕組みにすることで職員の確保を狙っている。しかしながら、全国的にも同じような試験をはじめるところが多く、土木・建築系技術職の奪い合いになっている。
- ・民間や他市から採用した30歳から40歳代の職員の処遇では、実務経験に基づいて昇進試験を受験できる年限を短縮する事例もある。

- ・ 社会人採用の働きぶりを見て、社会人採用をやめる市役所もある。
- ・ 大きい仕事がしたいという希望で市役所を退職し、都道府県に転職した職員がいるが、転職先でも魅力を感じなくなっているようである。
- ・ やりたい仕事ができないため、市役所に魅力を感じなくなってしまうのではないか。民間のように「マネージャー職」を募集する、などその職を募集してはどうか。ただ、良い人を採用できる仕組みを作ると、逆に良い人が転出してしまう環境になりかねない。
- ・ 技術職の人事配置は、技術部局が担当するところもあるが、最終的には人事部門が判断し、配置しているところが多いようだ。
- ・ やる気を失うきっかけとして、市役所に就職すること自体が目標であるケースと、民間から希望をもって市役所に来たが、業務などに失望しやる気を失うケースがあるのではないか。
- ・ 試験に合格して公務員になっても1年でやめてしまったり、夢を持って仕事に就いても30代くらいで幻滅し、メンタル不調になったりすることもある。
- ・ 若手の「とがった」職員を活用できていない現状がある。組織の体質に問題があるのではないか。
- ・ 学生がどの自治体に就職しようかと考える場合、自分の出身自治体を志向する傾向がある。市役所の土木系技術職はどのような仕事をやっているのか、進路を選ぶ前の段階(高校時代)に仕事内容に触れておく必要がある。
- ・ 新卒者で市役所の土木の技術職に応募する人が少ない。人数を確保できない場合、追加募集を行っている。
- ・ 大学生は、早めに就職を決めたいと思っている。公務員試験の前に民間企業の内定が出れば、そちらにいてしまう。
- ・ 学生がなぜ自治体を受けなくなってきたのか。その理由を知りたい。

3 アンケートに関する議論

- ・ 経験者採用で採用した人の前職はどこか。民間からなのか、他自治体なのか、調査の中で聞いてみたい。
- ・ 担当の人数を聞く場合、土木・建築の専門職の数だけでなく、事務を含めた総数を尋ねる必要があるのではないか。また、一人で複数の担当を持つ場合もあるため、どのように回答するか、注釈で示す必要がある。
- ・ 専門試験や教養試験の廃止について、聞き方を整理してほしい。選考採用について、追加するのはいかがか。
- ・ 土木・建築系技術職の育成についての設問で、スキルとコンピテンシーが混在している。設問の順序の入れ替えを行う必要がある。

(文責：日本都市センター)